

初対面会話における日本語母語話者の談話展開

—日本語学習者との比較から—

若松史恵(一橋大学大学院)

1. はじめに

初対面会話は、相手に関する情報量がゼロの状態から始まり、情報交換を行いながら、お互いに相手との共有知識を積み上げていく。そのような場面で参加者は相互にやりとりを行いながら、臨機応変に話題を導入、展開している。初対面会話において選択される話題には、同一文化内での共通性が見られると同時に、各文化間では相違が見られることが指摘されており(三牧, 2013), 多くの日本語学習者が話題選択に難しさを感じている(田所, 2013)。そのような話題選択の難しさを解消するためには、「何を話すか」だけでなく、会話の流れの中で「どのようにその話題を導入するか」という談話展開についても明らかにする必要があるだろう。しかし、これまでの研究では、談話展開について時間の経過に伴う分析があまり行われておらず、日本語母語話者の談話展開の特徴が十分に明らかになっているとはいえない。そこで本稿では、初対面会話を一定の時間軸を有した動的なものとして捉え、母語話者が時間の経過に伴いどのような後続話題を導入し、談話を展開しているのかを学習者との比較から明らかにする。

2. 先行研究

樋口(1996)は母語話者同士の初対面会話では、会話の初期段階において名前、学年等の個人的情報が交換されるのに対し、母語話者と学習者の会話では、そのような個人的情報の交換が会話全体に点在しているとしている。このため、母語話者同士の会話では、個人的情報は自己紹介部というまとまりをなすことになる。さらに、このような自己紹介部が存在する理由として、母語話者は、会話の初期段階において、その後の話題選択の方向性と話題の展開の方向性について、共通の理解を構築しようとしている可能性に言及されているものの、その後どのように談話が展開していくのかについては明らかにされていない。また、村上・熊取谷(1995)は、隣接するトピック間の談話内容から、トピックの連結型を新出型、派生型、再生型に分類してトピックの展開構造を捉えた。しかし、トピックとしてのまとまりの内部であっても、隣接する発話間ではその内容が緩やかにシフトしていく可能性が考えられる。そこで、本稿では村上・熊取谷(1995)を参考に、隣接する発話間の内容の繋がりから談話の展開を判断し、分析を行う。なお、本稿では、話題境界調査により区切られた一定のまとまりを持つ部分を談話とし、談話にまとまりをもたらしめている内容を話題とする。

3. 分析方法

3.1 話題境界調査

会話資料は「BTSJによる日本語話し言葉コーパス」(2011)から、日本語母語話者(以下、NS)と中国語母語の上級学習者(以下、CJL)の初対面二者会話をを用いる。母語場面6資料、接触場面6資料の合計12資料を用い、NSは母語場面の話者(6資料×話者兩名分)、CJLは接触場面の学習者(6資料×話者1名(学習者)分)とする。話者数はNSが12名(異なり話者7名)、CJLが6名(異なり話者4名)であり、すべての会話は異なる話者の組み合わせで行われている。話者の属性により会話のスタイルが異なる影響を最小限に抑えるため、資料はいずれも20代前半の女性、学生のものを選定した。CJLは全員日本の大学に所属している。資料は全て会話開始から14分まで¹、総発話数は、NSは4,039発話、CJLは1,709発話である。会話を一定のまとまりとしての単位に区切るため、日本語母語話者9名に対し話題境界調査(若松, 2018)を実施した。そして、5名以上が話題の切れ目であると指摘した箇所を話題境界と認定した結果、NSには94の、CJLには31の話題境界が認定された。本稿では、話題境界の次の1発話を話題開始部(以下、開始部)とし、開始部と先行文脈との繋がりから談話展開を分析する。なお、発話の単位は長い発話単位(JDRI, 2017)とする。

¹ 最も早く会話終了のタイマーが鳴ったペアに合わせ、すべての会話資料について、タイマーが鳴る前までの14分間を分析対象とした。

3.2 談話展開の型

開始部と先行文脈との繋がりという観点から談話展開の型を定義する。談話展開の型は村上・熊取谷 (1995) を参考に、前接発話と開始部という、連続する 2 つの発話間の繋がりから以下の 3 つに分類する。「新出型」は今まで話されていない内容について話題化されるもの、「前接展開型」(以下、前接型) は前接発話で話された内容の中から選択され、話題化されるもの、「前出展開型」(以下、前出型) は前接発話以前の発話で話された内容の中から選択され、話題化されるものである。なお、開始部が感動詞のみの場合は、その次の実質的な内容を持つ発話も分析に含める。また、前接発話とは開始部の直前の発話を指すが、直前の発話が途中で中断されたり、あいづち等である場合は、その前の実質的な内容を持つ発話とする。以下に例を示す。→は前接発話、⇒は開始部、横線は話題境界を表す(以下、同様)。

① 新出型

開始部 04 では住まいについて質問して、後続話題が導入されている。その直前の 02, 03 はあいづちと考え、前接発話は 01 とした。前接発話 01 では年齢について話されており、01 と 04 の間に内容的な繋がりは見られない。また、住まいについては前接発話以前の発話でも話されていないため新出型とする。

→ 01	A	[年齢について] 21 です<笑い>
02	B	うん
03	A	そっか
⇒ 04	B	え どちらにお住まいなんですか?

② 前接展開型

前接発話 01 で A はバイトの経験について語っている。その後、開始部 04 で B は前接発話で話されたバイトの探し方について質問して後続話題が導入されている。01 と 04 の間には「バイト」という繋がりが見られるため前接型とする。

→ 01	A	なんかでも出版社でバイトするのは面白かった
02	B	<そうですね→>{<
03	A	<うーん>{<
⇒ 04	B	え バイトどうやって見つけたんですか? <その…>{<
05	A	<なんか>{<その「大学名 1」にいた時に(はい) あの一学生課ってゆうところで

③ 前出展開型

開始部 93 では、A に対し、英語について質問して後続話題が導入されている。前接発話 89 では日本文学について話されているため、89 と 93 の間に内容的な繋がりは見られないが、発話をさらに遡ると 01 で A が英語科に所属していることが語られている。開始部 93 ではこの 01 で話された内容に基づいて後続話題が導入されているため前出型とする。

01	A	今英語科の 2 年でーす [88 行省略]
→ 89	A	[日本文学について] 高校の時ちょっと頑張ったかなぐらいで
90	B	うーん
91	A	へー
92	B	そっかー
⇒ 93	B	でも英語科だったら もう 英語もペラペラで?

なお、繋がりを示す表現に省略や言い換えがあった場合には文脈により内容の繋がりを判断するが、言語表現や文脈に繋がりが認められないものであっても、以下のものには繋がりを認める。以下に基準と例を示す。

1. 言語内及び言語外の文脈や知識に基づく推論により繋がりが判断されるもの

例: (第二文学部に通う相手に対し) 「え じゃあお昼は何やってんですか?」と質問するもの。「第二文学部」から「夜間に授業が行われ、昼間は大学の授業がない」という推論が行われたと考えられる。

2. 同一のカテゴリーに属すると判断されるもの

例: (小学校の思い出について語った後) 「えっ 中高は?」と中高の思い出について後続話題が導入されるもの。「中高」は先行文脈で話されていないが、「子供の頃の思い出」として小学校の思い出と同じカテゴリーに属している。

4. 分析結果

4.1 NS と CJL の談話展開の全体的傾向

NS と CJL の会話全体の談話展開を分類した結果を表 1 に示す。NS と CJL の新出型、前接型、前出型それぞれの出現数についてカイ二乗検定を行ったところ、有意差が見られた ($\chi^2(2) = 8.913, p < .05$)。残差分析の結果、NS は前出型が有意に多く、CJL は新出型が有意に多いことがわかった ($p < .05$)。NS は新しい内容よりも、既に話された内容から後続話題を選択し導入する(前出型)ことが多いのに対し、CJL は会話の中で以前話された内容を話題化する(前出型)ことは少なく、今まで話されていない新しい内容を話題化する(新出型)することが多く、NS と CJL の談話展開には異なる特徴がみられることがわかった。

次に NS と CJL の談話展開を時間軸に沿って検討する。NS の談話展開を時間の経過に伴って見ると、NS の会話の開始直後には新出型が多く現れており、また、終盤にかけて前出型が増える様子が見られた。そこで、会話開始から 5 分を基準に、会話の序盤(会話開始から 5 分まで)、中盤(5 分以降 10 分まで)、終盤(10 分以降会話終了まで)に分けて、NS の談話展開を表 2 に、CJL の談話展開を表 3 に示す。表 2 に示した NS の新出型、前接型、前出型の会話序盤、中盤、終盤におけるそれぞれの出現数についてフィッシャーの正確確率検定を行ったところ、有意差が見られた ($p < .01$)。Holm 法による多重比較の結果、序盤には新出型が、終盤には前出型が多く出現することがわかった ($p < .01$)。これに対し、表 3 に示した CJL の談話展開についても同様にフィッシャーの正確確率検定を行った結果、有意差は見られなかった。CJL は 3 つの談話展開の型が会話全体に分散して出現していることがわかる。

初対面会話は相手に関する情報がゼロの状態から始まり、情報交換を行いながら、お互いに相手との共有知識を積み上げていく。NS の会話では、話者に関する情報交換が多く行われる序盤に新しい話題を導入する新出型が多く出現したと考えられる。そして、終盤には新出型は現れず、以前に話された内容が再度話題として取り上げられる前出型が多く出現することがわかった。NS の会話終盤では新しい話題は導入されず、話者が情報交換する中で積み上げた共有知識から後続話題を導入して会話が進行されていると考えられる。

4.2 NS の談話展開の質的分析

前節の分析から、NS の初対面会話では、会話序盤に新出型が多く現れ、終盤に前出型が多く現れることがわかった。そこで、NS の会話序盤の新出型と終盤の前出型について質的に分析し、CJL と比較する。

(1) は会話開始直後の断片である。07 及び 10 で両者とも横浜に住んでいることが話され、08 や 11 からは互いに驚いている様子が見られる。しかし、その後、住まいは話題として取り上げられず、12 で大学について新出型で後続話題が導入されている。(2) は(1)と同じ会話の終盤である。この断片の前では、両者の地元が共に横浜の「地名」であることが明らかになっている。前接発話 575 では自転車を購入した店について話されており、開始部 578 との間に内容的な繋がりは見られないが、発話を遡ると、108 で A が「地名」に住んでいることが明らかになっており、この共有知識に基づいて後続話題が導入されていると考えられる。また、「地名」は両者の共通点になっており、578 の他にも、再度「地名」に繋がる話題が導入される様子が見られた。

樋口(1996)は、母語話者の初対面会話には、会話初期の自己紹介部において、話題の展開を回避するストラテジーが見られるとしている。つまり、自己紹介部で交換される個人的情報には話題としての発展は見られず、その結果、個人的情報が羅列されることになる。本稿のデータの会話序盤でも、(1)の 12 のように、話題として発展させることよりも、新たな情報の交換が優先される様子が多く見られた。一方、終盤では(2)のように、それまでに情報交換する中で作り上げたお互いの共有知識に基づいた話題が導入される様子が多く見られた。このような終盤における談話展開には、序盤における談話展開が関わっている可能性が考えられる。すなわち NS の初対面会話では、序盤では、交換した情報をすぐに話題として発展させることよりも、お互いの情報をさらに交換して共

表 1 NS と CJL の話題展開

	新出型	前接型	前出型	合計
NS	14	40	<u>40</u>	94
CJL	<u>12</u>	12	7	31

表 2 NS の話題展開

	序盤	中盤	終盤	合計
新出型	<u>11</u>	3	0	14
前接型	16	15	9	40
前出型	10	11	<u>19</u>	40

表 3 CJL の話題展開

	序盤	中盤	終盤	合計
新出型	5	3	4	12
前接型	3	4	5	12
前出型	2	3	2	7

(1) NS 「住まい」 - 「大学」(序盤 新出型)

	07	NS2	住まいはー横浜ですが
	08	NS3	[驚いたように]あ 横浜ですか?
	09	NS2	はい えっ どこ…?
→	10	NS3	横浜です
	11	NS2	あれま
⇒	12		えっ 東大の方なんですか?
	13	NS3	いえ 違います

【会話番号 253】

有知識を作り上げることが優先される。そして、その後はその共有知識に基づいた話題を導入することで談話を展開していくのだと考えられる。

次にCJLの新出型を検討する。NSは会話終盤では新出型が全く現れなかったのに対し、CJLの終盤には、序盤及び中盤と同程度の出現数が見られた。そこで、CJLの終盤の新出型を(3)に示す。(3)の直前では、CJL2の所属サークルについて話されており、479でNS3の所属するサークルについて質問されている。これに対し、480、482でNS3のサークルについて語られるものの、直後の483で新出型により後続話題が導入されている。CJLの会話終盤には、483のように新出型で「授業」や「キャンパス」について質問する場面が見られた。NSの会話では、会話の初期段階で授業の様子やキャンパスについて話されることはあったが、CJLのように終盤では見られなかった。CJLの談話展開と比べることで、NSの談話展開には、時間の経過に伴った一定の傾向が見られ、それには会話序盤の談話展開が大きくかかわっているといえるだろう。

<p>(2)NS「自転車」－「バス」(終盤 前出型)</p> <table border="0"> <tr><td>107</td><td>NS2</td><td>え 横浜のどこなんですか?</td></tr> <tr><td>108</td><td>NS3</td><td>私は「地名」</td></tr> <tr><td></td><td></td><td>[465 行省略]</td></tr> <tr><td>574</td><td>NS2</td><td>[自転車について] 私もオリンピックで買った うん</td></tr> <tr><td>→ 575</td><td></td><td>オリンピックは良い</td></tr> <tr><td>576</td><td>NS3</td><td>うん</td></tr> <tr><td>577</td><td>NS2</td><td>うーん</td></tr> <tr><td>→ 578</td><td></td><td>でも「地名」だとー 4丁目の辺りっていったら バスは…?</td></tr> </table> <p style="text-align: right;">【会話番号 253】</p>	107	NS2	え 横浜のどこなんですか?	108	NS3	私は「地名」			[465 行省略]	574	NS2	[自転車について] 私もオリンピックで買った うん	→ 575		オリンピックは良い	576	NS3	うん	577	NS2	うーん	→ 578		でも「地名」だとー 4丁目の辺りっていったら バスは…?	<p>(3)CJL「サークル」－「授業」(終盤 新出型)</p> <table border="0"> <tr><td>479</td><td>CJL2</td><td>じゃ サークルは?</td></tr> <tr><td>480</td><td>NS3</td><td>私は 今はもう入ってないんですけど</td></tr> <tr><td>481</td><td>CJL2</td><td>ふーん</td></tr> <tr><td>→ 482</td><td>NS3</td><td>前は登山のサークルに入っていました</td></tr> <tr><td>⇒ 483</td><td>CJL2</td><td>月から土曜ま まで 毎日授業入ってる?</td></tr> <tr><td>484</td><td>NS3</td><td>毎日 あ 木曜日だけ入ってない</td></tr> </table> <p style="text-align: right;">【会話番号 261】</p>	479	CJL2	じゃ サークルは?	480	NS3	私は 今はもう入ってないんですけど	481	CJL2	ふーん	→ 482	NS3	前は登山のサークルに入っていました	⇒ 483	CJL2	月から土曜ま まで 毎日授業入ってる?	484	NS3	毎日 あ 木曜日だけ入ってない
107	NS2	え 横浜のどこなんですか?																																									
108	NS3	私は「地名」																																									
		[465 行省略]																																									
574	NS2	[自転車について] 私もオリンピックで買った うん																																									
→ 575		オリンピックは良い																																									
576	NS3	うん																																									
577	NS2	うーん																																									
→ 578		でも「地名」だとー 4丁目の辺りっていったら バスは…?																																									
479	CJL2	じゃ サークルは?																																									
480	NS3	私は 今はもう入ってないんですけど																																									
481	CJL2	ふーん																																									
→ 482	NS3	前は登山のサークルに入っていました																																									
⇒ 483	CJL2	月から土曜ま まで 毎日授業入ってる?																																									
484	NS3	毎日 あ 木曜日だけ入ってない																																									

5. おわりに

本稿では、初対面会話において、母語話者が時間の経過に伴いどのような後続話題を導入し、談話を展開しているのかを学習者との比較から明らかにした。分析の結果、母語話者の会話では、会話序盤で新しい情報が多く交換され、終盤では、それまでに話した内容から話題が選択、導入されることが多いのに対し、学習者にはこのような特徴が見られなかった。このことから、母語話者には、時間の経過に伴った談話展開に一定の傾向があるといえるだろう。また、母語話者の会話序盤では、交換した情報をすぐに話題として発展させることよりも、お互いの情報をさらに交換することを優先する様子が観察されたが、そのような行動は、お互いに背景知識を共有しない初対面会話において、時間の経過と共に相手との共有知識を作り上げ、さらにお互いの共通点を見つけ出すことに貢献していると考えられる。このようにして積み上げられた共有知識は、その後の談話展開に大きく影響していると考えられる。母語話者は、そのような共有知識に基づき、直前だけでなく以前話された内容に再度言及して談話を展開し、会話を進行しているといえよう。

文字化の記号 文字化の記号は、「基本的な文字化の原則」(2011)に従った。以下に、本研究で主に使用した記号を記す。

<>{ } : 重ねられた発話 < >{ } : 重ねた発話 () : 短いあいづち [] : 文脈情報

参考文献

- 樋口斉子 (1996). 初対面会話での話題の転換 日本人の談話行動のスキプト・ストラテジーの研究とマルチメディア教材の試作, 研究成果報告書, pp. 75-110.
- Japanese Discourse Research Initiative (2017). 発話単位ラベリングマニュアル version2.1
- 三牧陽子 (2013). ポライトネスの談話分析 くろしお出版
- 村上恵・熊取谷哲夫 (1995). 談話トピックの結束性と展開構造 表現研究, 62, 101-111.
- 田所希佳子 (2013). 初対面会話教育における重要項目の選定に関する考察—母語話者・非母語話者に対する意識調査から— 早稲田日本語研究, 22, 13-23.
- 若松史恵 (2018). 話題境界に出現する言語的要素についての考察—話題開始部に着目して— 2018 年度日本語教育学会 秋季大会予稿集, 208-213.

使用コーパス

宇佐美まゆみ監修 (2011). BTSJ による日本語話し言葉コーパス 2011 年版